

# きのくに子ども NPO

2019. 7. 1. 発行

第 142 号  
きのくに子ども NPO

〒640-8401

和歌山市福島487 ルミネープふい1C

Tel.Fax : 073-452-7710

E-mail : [kinokuni.kodomo@nifty.com](mailto:kinokuni.kodomo@nifty.com)

<http://kinokunikodomo.d.doo.jp/>

## きのくに子どもNPO第19回総会

5月26日

親と子の広場・アン 事務所 内



オープニングは会員田村美千代さんの三線(さんしん)演奏と唄でした。明るさのなかに哀愁のただよう沖縄民謡を聞いて沖縄の歴史と現状を思いました。  
会場は座卓で、まさに膝を突き合わせての話し合いができました。総会ではお父さんや中高校生、青年会員から活動報告がありました。当日の発表の一部を2面に載せているのでご覧ください。  
今年度は、長く事務局長を務めた小木曾さんが退き、新たに江利川さんが事務局長に就任しました。江利川さんにこれからの抱負を語ってもらいます。



### きのくに子ども NPO を

### よろしくお祈いします!

きのくに子ども NPO (きのぴー) の活動は多岐にわたっています。一言では説明しにくいかもしれませんが、その内容の全てがその時その時必要とされ、求められてきたことが活動につながってきていると思います。すべての子どもが「心豊かな子ども時代」を過ごし、「あそび」を通じて“生きる力”を培ってほしい、「そのために何が必要か?」「大人はどう関わればいいのか?」ということを考えながら活動を創ってきたと思います。

きのぴーが「〇〇クラブ」や「〇〇教室」と違うのは、会員さんが主体的に関わり活動を一緒に作っていく点です。一緒に遊んだり、活動する中で、子ども同士仲良くなったり、縦の関係の中で年長の子どもが役割を自覚してぐんと成長したり、子どもだけでなく、親同士もつながることでお互いが本音で語り合え、自然と共同の子育ての場が生まれています。

会員さん一人一人の「声」や「思い」が、より一層深みのある、わくわくドキドキする楽しい活動につながっています。今年は新しく「この指とまれ」が始ま

りました。また、機関紙を作ったり、鑑賞作品を選んだり、あそびのリーダーになったりと、会員さんが興味のあるところで活躍しています。

皆さんは何がきっかけできのぴーに入会されましたか?私は20年前、人形劇のチラシを見て、和歌山西子ども劇場(きのぴーの前身)に入会しました。子どもが小学生時代は「不登校」、思春期の中学時代には親子でのバトル、その度にきのぴーで相談のってもらったり、愚痴を聞いてもらっていました。もしきのぴーに入らなかつたら、悩みを抱えて孤立していたかもしれません。

私たちは、子ども一人ひとりの人格を尊重し、対等であることを大事にしてきました。「おとなの良かれが、子どものベストではない」ということを忘れないで、これからも魅力のある活動を広げ、私たちの活動に共感する大人をもっと増やしていきたいと思っています。



事務局長 江利川 由喜

# 「あみはうす」は、子どもたちが本当の意味で成長することの出来る場所

総会の活動報告  
の発表より

あみはうすの魅力は、何と言っても「異学年集団での遊びを通して、学び合いが自然と実現されている」部分です。夏のあみはうすでは、1年生から6年生まで、一緒になって水風船でビショビショになるまで全力で遊び、春のあみはうすでは、お弁当を持って、近くの古墳まで探検に!!でも途中で、どんどん行きたいところが増えていき、最終的には、丸一日かけての遠足になったこともありました。「大きな公園があるよ」と言って、しっかり者の低学年さんが自信満々で道案内をしてくれ、それについて行ったみんな。でもなかなか辿り着かず、到着したのはしたけれど、すっごく遠回りだった…ことが後から判明。それでも誰一人、責めることなく、あれだけ歩いたにもかかわらず、鬼ごっこから始まっての凍り鬼、手つなぎ鬼ごっこ、警泥、そして最終的には恒例のリレー…。それも偶然やって来た中学生も一緒になって。この日のことをみんなは覚えていることはないだろうけれど…。そんな彼らと私も全力になって走りながら、「子どもたちが成長する理想的な姿なんだろうなあ。素敵だなあ。すごいなあ。」と感じたものでした。

また、もう一つの魅力は子どもたち一人ひとりが自分の考えや、思いをしっかりと持ち、それを互いに伝え合うことが出来ていることです。そして、そんな環境が整っているということです。「自分の思いと友だちの思いが違う…。どうしようか…」と葛藤するなかで、それでも背けることなく、真正面から向き合っている低学年組…。そんな状況にいち早く気づき、「どうにかして、みんなが納得出来る良い方法はないかなあ…」と懸命に考え、案を出している上級生組の姿に、感心させられました。性格や考え方、好きなことや得意なことも違うなかで、初めの頃はお互いをなかなか受け入れられない様子であっても、ともに過ごす時間が増えていくなかで、子どもたちはお互いの違いを認め合い、助け合うことが出来ています。

「あみはうす」に集まってくる親御さん、子どもたち、本当に素敵だなあと感じるとともに、このような場所が、子どもの明るい未来をつくっていくんだらうなと心から感じています。

藁科 佳奈(和歌山大学4回生)

## みんなの声が聞きたい!



### きのぴー交流会(中学生~青年)

キャンプのリーダー会議や班会の中でやりたいこと等の意見が出ないことをどうにか出来ないかとそう思い、今回の交流会で出来るだけみんなが意見を言える環境にしたい、この交流会をそんなきっかけにしたいと思いました。小中学生ともしっかり仲良くなるためにゲームをして、ワークショップで自分たちのパン屋さんを作りました。なかなか熱を帯びた議論が全班で飛び、それぞれ違った色のものが出来ました。でも僕が1番嬉しかったのは、3ヶ月後の高学年キャンプの親向け説明会での出来事です。班会をした時、去年は意見を出せずにいた子が「これ食べたい!」とたくさん言うてくれて、交流会がきっかけかは分かりませんが、この行動で胸がいっぱいになりました!この輪がこれからも広がるように続けて行ければいいなと思います。

塚原 二千夏(青年)



# 小学六年生日記

ハラ



三口で食事終わり？  
仙人かよ！  
足りてるの？  
毎食お供え物気分  
や...。



大丈夫よ！  
佐藤さああん  
もし私が  
食べさせない  
虐待で捕まったら  
証言して下さい

ぐるんばにて



って悩んでたな！  
過去に  
タイムスリップ  
できるなら  
その頃の自分を  
励ましたい

あんた今ね  
悩んでるね  
2019  
誰？  
このオバさん  
不審者？  
2009  
私



ただいまー！  
おやつなに？  
晩御飯何？  
おかずは？

まだこれから  
考えるとこ！  
ってやりとりできる  
くらい育ったから。

## <子どもゆめ基金事業> “和歌山の海を再発見！海の生き物と環境問題”

### “磯の観察をしよう！”

5月18日（土）  
浜の宮海水浴場



第1弾

私たちの身近にある海の生き物の多様性や不思議さを知って、地球の環境を考えてみました！  
秋には、第2弾、根来げんきの森「漁民の森」で「山川海のつながりを考えよう！」を企画中♪  
自然のなかで、遊びながら環境への関心を深めていきたいと思います。

今年で2回目となる磯の観察ですが、前回とは違った場所に行けて子どもたちは到着前からワクワクドキドキ。子どもたちの安全に配慮してくれた場所で安心して楽しむことができました。小さなカニはもちろん、今まで見たことも触ったこともない「アメフラシ」を身近で見られたり直接接触したり、先生の説明を聞けたりと、子どもたちは始終感動していました。

また、単に磯で生き物を探すだけでなく、海の環境の実験など、子どもたちが環境破壊について考える場も作っていただき子どもながらに「ゴミを捨てたらダメ」という教育もしていただけたのが非常に嬉しかったです。また是非来年も参加したいです。清水 宏行（父）



### 幼児を持つ親の会

「幼少期に大事にしたいことは？」  
に参加してきました！

長男が今年4月に幼稚園に入園し、生活環境ガラッと変わったストレスと疲れもあり、家での癪癪がかなりひどくなりました。何か欲求してくることが多くなり、受け入れてあげたいけれど、甘やかしてはいけないと思う気持ちもあり、どう対応して良いのか悩んでいます。そこで今回、大野先生や他のお母さん方の話で、受け入れてあげられることならどんどん受け入れてあげればいいよ。とアドバイスを聞き、あまり考えすぎないで対応しようと思いい、気持ちが楽になりました。他にも幼稚園へ行きたくないや登園を嫌がるときの対応、習い事、兄弟ケンカ、ゲームについてなどいろんなお母さんの話を聞いてとても参考になりました。子どもの成長にもなってもまた新たな悩み事がでてくると思いますが、色々な方のアドバイスを参考にしながら子どもにとって良い対応をしていきたいと思えます。

藪 麻佐美



